

所 報

(2024.12.1 ~ 12.31)

□刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』795号 (2025年1月)

□図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	21	8	29
受 贈	25	2	27
合 計	46	10	56

□閲覧サービス

閲覧

開館日数 19日
閲覧者数 14名
貸出図書 9冊

コピーサービス

学外 12件 2,397枚
学内 2件 1,510枚

日 誌

- 4日 所員会議, 事務会議
7日 無産政党資料研究会
①中村元 (新潟大学人文学部教授) 「『無産政党の命運』について」
②山本捷馬 (琥白書房代表), 立本紘之 (兼任研究員), 福家崇洋 (京都大学人文科学研究所准教授), 杉本弘幸 (京都府立京都学・歴史館京都学研究员/京都芸術大学准教授) 「復刻版 中間派無産政党機関紙集について」
18日 運営委員会
①兼任研究員の公募について
②キャンパスグラウンドデザイン策定に伴う意見聴取の件
③HOSEI ミュージアムの運営委員選出依頼
21日 大原社会政策研究会 (第125回)
岸本華果 (広島大学大学院人間社会科学研究所博士課程) 「食と農から「生命系の経済」を志向する取り組みに関する事例研究」

- 23日 シンポジウム「戦後日本の労働者像——歴史・経営・文化」開催 (於:早稲田大学国際会議場)
基調講演:アンドルー・ゴードン (ハーバード大学歴史学部教授/東京カレッジ客員教授) 「戦後日本労働史の再検討」
研究発表:榎一江 (専任研究員) 「働く女性の歴史をめぐって」, 清水剛 (東京大学大学院総合文化研究科教授) 「「サラリーマン」像と「主婦」像の変容——会社との関係を中心に」, 坪井秀人 (早稲田大学文学学術院教授) 「労働者が書くこと——1950年代サークル文学論のために」
司会:鈴木貴宇 (早稲田大学文学学術院教授)
25日 月例研究会
鈴木健吾 (兼任研究員) 「国民的建築学から「まもる会」へ——都市計画学者・西山卯三の高度成長期」
26日 労務供給多様化研究会
講師:塩見卓也 (弁護士/大阪公立大学大学院法学研究科特任教授)
「労働者派遣法40条の6をめぐる裁判例と現行法の課題」
27日 冬季休業 (～1月6日)

大原社会問題研究所雑誌

No.798 (2025年4月号)

2025年4月1日発行

定価1,100円 (本体1,000円+税10%)

年間購読13,200円 (税込)

編集 (兼) 発行人 法政大学大原社会問題研究所

編集長 藤原千沙

所 長 榎 一江

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

電話 042 (783) 2305

印刷 株式会社相模プリント